特集／こどもの本

熊本子どもの本の研究会 四〇年のあゆみとこれから

特定非営利活動法人熊本子どもの本の研究会　理事長　横田 真

来月より、熊本子どもの本の研究会（以下「研究会」）は四一年目の活動を開始いたします。研究会は、「子どもの本と読書について理解を深める。『お話』を子どもに語って聞かせる」を柱に、一九八三年五月に私の母である横田幸子（二〇二一年九月死去）が中心となって発足し、子どもの本に関わる様々な活動を展開してきました。本稿でご紹介する研究会活動四〇年のあゆみが、「こども本の森　熊本」の開館を契機とした今後の児童読書促進活動の参考になれば幸いです。

研究会活動の概要

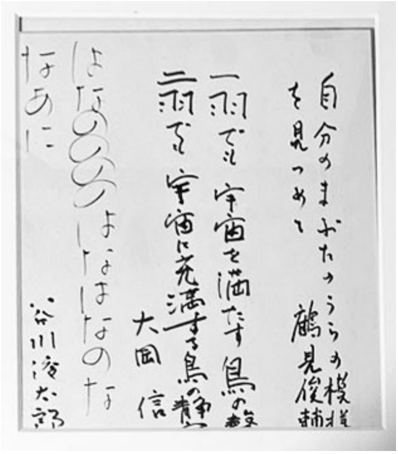
母は、小学生（西原小学校）の私が毎週金曜日にバスに乗って当時熊本城の近くにあった県立図書館に通っていたのを見て、市立図書館の巡回文庫を活用した「びわの木文庫」を自宅で始めました。その後、巡回文庫関係の方々と一緒に一九七八年より「ひまわり学習会」活動を開始。この学習会活動を継承する形で熊本子どもの本の研究会が設立されました。

「子どもの本と読書について理解を深める」ため、大人が学ぶことを目的にした例会・講座・講演会などの活動を多く実施してきたことが当研究会の特徴です。絵本、児童書、昔話、わらべうた、ファンタジー、漫画、アニマシオン、ブックトークなどの幅広い分野について、毎年テーマを決めて

横田幸子

例会・講座を開催して来ました。最盛期にはテーマ別の四つの例会をそれぞれ毎月一回ずつ開催し、講師の方のご指導を受けながら会員自身で資料をまとめ発表しあったり、お話の実習を行なったりしてきました。二〇二三年度は、月一回の講座に加え、オンラインでの読書会なども開催いたしました。

講演会も発足最初の年から毎年開催し、松谷みよ子氏、神沢利子氏、河合隼雄氏といった著名な方々に熊本に来ていただいております。二〇〇三年五月に鶴見俊輔氏、谷川俊太郎氏、大岡信氏の三氏を招いて熊本県立劇場演劇ホールで開催した二〇周年事業の講演会には、一五〇〇人を超える方がご参加いただきました。最近では、二〇二三年九月に翻訳家のさくまゆみこさんを招いて四〇周年記念講演会を開催しております。



「『お話』を子どもに語って聞かせる」活動も、設立当初から積極的に実施して参りました。お話会活動は、それぞれの会員が自らの地元で行なうことに加え、研究会自身の活動としても図書館、小学校や支援学校などに赴き、実施してきました。一九八八年三月までに熊本市立図書館で通算一一九回のお話会を開催し、三五〇〇人の子ども・大人にお話を届けました。同時期に小学校などへ訪問してのお話会も二四ヵ所、延べ五三回開催しています。一九九五年から二〇一一年までは、毎年四月に鶴屋百貨店で「子どもにおはなしを　本のたのしみを展」を開催し、子ども達がお話に触れるきっかけ作りをいたしました。二〇二三年度も、おはなしボランティア「びわの木」として、一九回の訪問お話会を開催いたしました。

研究会の五周年事業として始まった「昔話を楽しむ九州交流会」は、以後沖縄県も含めた各県持ち回りで三〇回まで

おはなしボランティア活動

開催されました。本交流会として二〇〇六年には久留島武彦文化賞を受賞しました。一〇周年事業で始まった「くまもとお話の交流会」は、その後、県内各地のお話しグループの持ち回りで二九回まで開催されました。

会報『子どもの本』

研究会では発足年の九月より、研究会活動の連絡・結果報告、会員からの投稿などを掲載した会報（B5版八ページの冊子）を発行（当初は毎月、二〇二〇年度からは奇数月発行。二〇二一年五月号からはホームページにも全文掲載）し、会員及びお世話になっている方々にお配りしています。二〇二四年の三月号で第四五〇号となります。巻頭言の「私の一冊」には、講師や会員だけでなく、県内外の様々な方々にもご寄稿いただいています。

機関誌『初茜』

研究会の活動の記録は、発足翌年の一九八四年度に創刊した機関誌『初茜』にまとめてきております。『初茜』は、元日の日の出の空の色を意味し、岡村一郎氏（当時熊本女子大学学長）に命名いただきました。前年度に例会・講座・講演会で学んだことを、講演録などの形で掲載するとともに、おはなしボランティアとしての小学校への訪問なども含めた研究会の全ての活動記録を掲載しております。三〇号（二〇一四年発行）では二〇一三年度までの三〇年のあゆみを紹介しております。『初茜』の発行は三一号（二〇一四年）で止まっておりますが、昨年四〇周年を迎えたことを機に、次号を発行できればと思っております。

情報誌『みんなあつまれ』

熊本県内の文庫とお話のグループ及び図書館の情報を掲載した情報誌『みんなあつまれ』を、一〇周年記念事業の一環として一九九四年に発行しました。各地域の方々がお近くの図書館を活用したりお話会に参加したりする手助けになればとの想いから取りまとめたものです。その後、文部科学省関係の委託費や助成金を得て、二〇一五年度まで断続的に発行しております。

単行本

研究会では、『神話的時間』（一九九五年：一〇周

年事業での鶴見俊輔氏の講演、谷川俊太郎氏と工藤直子氏の対談など）、『神話とのつながり』（一九九七年：鶴見俊輔氏の対談、『神話的時間』をテーマにした応募原稿など）、『子どもがみつけた本』（一九九九年：池澤夏樹氏、工藤直子氏の講演と一五周年事業として実施した子どもがみつけた本に関する応募原稿など）、『わたしの一冊』（二〇〇一年：会報『子どもの本』の私の一冊のまとめ）、『日本語の新しい方向へ』（二〇〇三年：二〇周年事業の鶴見俊輔氏、大岡信氏の講演など）と、五冊の単行本を発行しています。『神話的時間』は一万三〇〇〇冊ほど売れ、三〇年近く経った現在でも継続的に注文が来ています。電子書籍版も出しております。

びわの木文庫

巡回文庫で始まった「びわの木文庫」は、助成金などにより充実し、増築した事務所棟の二階の図書室を中心に現在五〇〇〇冊ほどの児童書を保有しています。母が元気な頃は、この本に囲まれた環境の中で、来熊いただいた講師の方々と子どもたちとの交流会（お話会、演奏会など）も開催していました。現在月一回程度の頻度で蔵書の貸出しを行なっており、今後は貸出日を増やすだけでなく、交流の場としても活用できればと思っています。

びわの木文庫

研究会は一九九三年にくまもと県民文化賞（地域文化活動部門）を、二〇〇三年に子ども読書活動優秀実践団体文部科学大臣賞を受賞いたしました。それぞれ一〇周年、二〇周年にあたる年で、研究会の会員にとって良い励みとなりました。

主婦を中心とした会員により運営されている研究会が、これだけの活動をしてこられたのは、会員の方々が自らの学びのために積極的に活動してきていただいたことに加え、くまもと21ファンド、子ども

ゆめ基金などからの助成や賛助会員企業の方々からの支援があったためです。会員及び支援者の方々に感謝いたします。なお、研究会は二〇一一年に特定非営利活動法人に改組し、以後、理事・監事のご指導を得て運営しております。また、二〇二二年度より熊本県のふるさとくまもと応援寄付金のNPOなど支援対象団体にも登録され、ご支援いただいています。会員数は設立当初より二〇〇名ほどで推移しておりましたが、最近は高齢化に伴う減少傾向にあり、現在は六〇名弱となっています。新しい方々にご参加いただき、活動の幅を広げることができればと思っています。

20 周年記念事業集合写真

母の体調の衰えを受け、二〇一八年三月に私が東京在住のまま理事長職を引き継ぎましたが、その後はコロナ禍もあり、研究会の活動を維持することだけで手一杯の状況が続いて参りました。そのような中で本稿の執筆の機会を得たことは、これまでの研究会活動に携わってきた母及び会員の方々の想いを再認識する非常に良い機会となりました。私は大学から東京に出、政府及び民間企業で働いてきましたが、今年六五歳となるのを契機に、郷里熊本で過ごす時間を増やし、会員の方々と共に研究会活動を継続・発展させていければと思っています。ご支援方宜しくお願い申し上げます。

（よこた　まこと）

参考文献　横田幸子『地域活動の魅力』（二〇〇八年六月二二日発行、熊本日日新聞社）

熊本子どもの本の研究会
びわの木文庫

熊本市東区西原 1-15-24
概ね月 1 回程度の貸出日に開館
貸出日は下記 HP でご確認下さい
https://kodomonohon.org
✉　info@kodomonohon.org